

人災は、平常時にひたひたと仕込まれ、
天災は、ある日とつぜん襲ってくる。

病気なのに家の中に閉じこもり、苦しんでいる人ばかりではない。対応に苦慮する、街の診療所。患者さんの搬送先を見つけるため、奔走する救急隊。感染の恐怖の中、治療にあたる病院スタッフ。行政と住民の間で、疲弊する保健所。人がいない、ベッドがない、物資がない…。

その背景には、現場の悲鳴をよそに、今までさんざん削られてきた医療費がある。「メルケルを、四六六億で、雇いたい」。そんな川柳も詠われている昨今、非科学的・非合理的なことがまかり通るのに、慣れすぎてしまった。息苦しいのは、正義感に満ちた「善人」が「悪人」にそれを論している世の空気。

この災禍の中、他者の立場や気持ちを思い、自分の持ち場で仕事を続けていこう。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操